

教育条件整備研究部会

I 研究テーマ

「豊かな教育を子どもたちに」 ～ 有効な予算の活用に向けて ～

II テーマ設定の理由

子どもの学びの保障と学習環境の整備をはかるため、予算の実態を明らかにし、より有効な予算の活用に向けてとりくむ。そのために学習会や各校の実践、調査などから研究を深め、より有効な予算の活用方法を探っていききたい。

III 研究の経過と内容

1 研究経過

4月11日 役員と研究テーマの決定、具体的な研究内容の検討

5月14日 研究の基調・運営方針・研究計画の決定、春季教研の報告、
2013年度予算分析

6月18日 予算についての学習会（講師：甲府市教育委員会 学事課2名）
調査内容の提案・検討

7月31日 施設見学（校舎新築校・千塚小学校）
調査結果・分析

8月16日 2012年度決算書の分析及び執行についての情報交換

9月 3日 県教研レポートの内容検討・予算要求にむけて

10月 1日 県教研レポートの内容確認

11月 5日 秋季教研の報告・予算要求を終えて

1月21日 本年度研究の反省と来年度の課題、次年度の運営について

2 研究内容

(1) 2013年度予算の分析

ここ数年、予算要求書を作成する際、市教育委員会からは前年度配当額のマイナス5%、歳出全般の精査と、予算の重点化・効率化を意識した予算編成をするようにとの指示があり、各校とも予算が減額される中、やりくりしに苦慮している現状である。この調査は、全校の総額ではないが、自校及び他校の予算配当状況を知る良い機会であり、調査結果は、予算執行・予算要求に活かした。配当額が一律の配当でなくなって来ている傾向もあるので、予算要求書やヒアリングをさらに工夫して学校の要望を伝えていく必要がある。特に振興費の手数料（スポーツテスト処理料・柔道着クリーニング代等）については、必要額をわかりやすく示して予算要求し、全中学校が揃って公費化となるよう、ヒアリングの機会に市教委に理解を求め、一層強くとりくむ必要がある。

(2) 2012年度決算書の分析・執行についての情報交換

昨年度の学校予算・決算の概要を各校と情報交換をした。予算が減額されている中、各学校は、厳しい状況が続いている。決算書を作成することは、各校の予算執行が、適切だったかを見直す良い機会となる。また、全体で決算書を見ることにより、他校の執行の状況や予算執行の工夫を把握することができ、各校の効率的な予算の執行に役立てることができた。

(3) エアコン設置状況調査及び設置に伴う問題点

2012年度、中学校のエアコン設置事業が終了した。その現状と、反省を小学校のエアコン設置事業へ活かせるよう設置場所・集中管理の有無・電気か・ガスか・ストーブ併用か・灯油配当量と不足状況・追加配当の有無等を調査した。中学校と小学校の設置状況を知ることでも来年度実施校の設置に役立てたい。

(中学校) エアコンを入れても、厳冬期には、十分な暖かさが確保されないため、ストーブと併用する場合もある。また、エアコンが設置されない部屋や体育館のジェットヒーターなど灯油を必要とする場面もある。エアコン設置に伴い灯油の配当量が激減したので、ほとんどの学校で灯油が不足した。灯油の配当についての要求が必要である。

(小学校) 2013年度、大規模校を中心に小学校10校へのエアコン設置工事が行われた。まだ冬期に使用しての結果が出ていないので、灯油配当とのかかわりについては、調査結果がない。2014年度には、残りの15校のエアコン設置工事が予定されている。

(4) リースについて

ファックスと他にリース希望の備品、XP終了後のパソコンについて、必要台数(リース希望・リースアップ希望等)について調査した。パソコンのXPサポート期間の終了が、2014年4月ということを目前に、現在使用しているXPパソコンを今後どうしていくかという大きな問題に直面している。必要台数の代替品を新規購入品にするのか、リース品にするのか、リースアップ品にするのか選択をせまられる。高額備品であること以外にも周辺機器の選択にも影響があるので、市教委でパソコンおよび周辺機器についてリースで対応すべきであると考え、2014年度予算要求には、XPパソコンの代替として各校の必要台数をリースでまかなってもらえるよう各校でのとりくみをした。

(5) プリンター設置状況調査

指導要録・通信表・健康カードなどパソコンでの処理するものが多くなりプリントアウトする時期も時間帯も集中している。プリンターの現状を知り、予算要求活動に活かすため、パソコン室・財務会計以外のプリンターについて調査した。学校独自で予算要求する中、一般備品としてプリンターを購入しているため、学校間で設置状況にかなりばらつきがある。パソコン処理で書類作成する仕事が多くなっているが、学校で教職員が働く環境として、どの程度、標準的にプリンターが必要なのか検討していく必要がある。

(6) 児童生徒の学習環境調査（児童生徒用机・椅子買い替え状況他）

2005年度以降の校舎新築校、大規模改修工事校、校舎耐震工事校の一部の学校では、児童用机・椅子も新しくなったが、それ以外の学校では古いままの所もあり、児童生徒の学習環境に格差が生じている。児童生徒用机・椅子買い替えは、エアコン事業の次の計画に予定されている。予算要求・統一予算要求などに反映させて、実現されるよう実態を把握するため、「児童生徒の学習環境調査」を本年度実施した。調査することにより、他校と自校の実態をつかむことができ、今後の予算要求活動にそれぞれ活かすことができると期待される。

(7) 予算についての学習会

市教育委員会学事課より2名の方を講師に迎え、今年度予算についての学習会を行った。予算についての質問・要望について回答をいただいた。市全体の予算状況と教育費について学習した。学校配当予算については、予算配分を児童数や学級数および各学校へのヒアリングより決定したこと、今年度の学事課の重点施策などが話題となった。

IV まとめと今後の課題

本研究会では、学校予算の増額と保護者負担の軽減を図るため予算分析を行い、予算要求につなげるように継続して研究している。今年度は、配当予算について決算書を分析し、エアコン設置状況・リース物品・プリンター設置状況・学習環境調査などを行ったが、今後はこの調査結果をふまえて予算を有効に活用していく手立てを考えていきたい。また、統一様式での予算要求書提出、全校ヒアリング実施、校内での提案資料の共通化は定着している状況であるが、ここ数年は市の財政も厳しく、原則として対前年度比マイナス5%の予算要求書作成を迫られている。こうした状況下で、予算要求書をどのように編成していくか、配当された予算をいかに効率的に執行するかが大きな課題となってきている。

研究会に参加して、「予算を学ぶ」ということが大切である。例年、研究会の中で市教育委員会学事課の担当者を講師に招き「予算についての学習会」を行っており、予算要求に向けて調査・分析だけでなく、予算についての今後の見通し等を把握する上で、貴重な情報交換の場となっている。

一人でも多くの事務職員の参加を期待し、多くの情報の中から有効な予算の活用に向けての学習をすすめ、情報共有の機会としていきたい。また、学校予算全体の研究をし、さらに学習を深め共通理解を活かした予算要求に結びつけることができるよう、事務職員以外の立場からの情報も聞く機会が持てるよう会員の増員を働きかけることも今後の課題である。